

2018年度JICAインターンシップ・プログラム（中期）ポスター一覧

登録番号	受入事務所	募集人数	テーマ
18中期01	カメルーン事務所	1	コメ振興プロジェクトにおける研修実施および一般農家への活動モニタリング
18中期02	ポリビア事務所	1	ボランティア事業の実施効果分析、及び他機関との協働可能性に係る調査
18中期03	ザンビア事務所	3	教育プロジェクトにおける初中等学校・教員養成校での調査支援及びプロジェクト運営管理業務の補佐
18中期04	ザンビア事務所	2	ザンビア国における稲栽培技術
18中期05	東北支部	1	東北5県（青森、岩手、秋田、宮城、山形）における国際協力への理解促進に向けた広報マテリアルの作成

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	18中期01
■部署名/事務所名:	カメルーン事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:	コメ振興プロジェクト		
■テーマ			
コメ振興プロジェクトにおける研修実施および一般農家への活動モニタリング			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>カメルーンにおいて農業は基幹産業であり、就業人口の約6割を占めている。また、近年都市部を中心として米食やパン食が好まれるようになり、国家稲作振興戦略文書（以下NRDS）によれば、都市部のコメ消費量は37.3kg/人・年、農村部のコメ消費量は19.4kg/人・年と記されており、主食の範囲が広がりつつある。しかしながら、増加するコメ消費量に対し、国内のコメ生産量は2014年には19万トンに過ぎず、その多くを輸入に頼っており2010年から2014年の5年間の平均で56万トンのコメが輸入されていることから、食糧安全保障の観点および国際貿易収支の不均衡は正のためにも、コメの自給率を上げる事が急務となっている。</p> <p>カメルーンは、「アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）」の支援対象国でもあり、2009年には策定されたNRDSでは、10年間で国内コメ生産量を10万トン（籾）、推計から約97万トン（籾）に増産することを数値目標としており、国内稲作振興によるコメの国内自給を目標に掲げている。</p> <p>こうした背景・政策に基づいて「熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクト（PRODERiP, 2011年5月～2016年5月）」が実施されてきたが、その成果を引継ぎ、課題であるイネ種子生産体制の強化、また生産性の高い水稲地域の生産量増加を目指して「コメ振興プロジェクト」が要請され、2016年6月から5年間の協力を開始している。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>今回募集するインターンはプロジェクトが実施する陸稲・水稲普及業務において、研修実施やモニタリングを通じた効果的な技術移転及びプロジェクト運営を学ぶことを目的とし、下記の業務の中から実習時のプロジェクトの状況とインターンの希望・能力に応じて実習を割り当てることとする。（1）原原種種子生産圃場の維持管理、（2）作付けに係る中核・一般農家へのモニタリング補助、（3）農業省普及員及び中核農家への陸稲栽培・適正収穫後処理技術に関する研修の実施補助（4）「ネリカ栽培ガイド」改訂及び「灌漑水稲栽培技術マニュアル」の作成補助、（5）農業機械（籾摺り精米機、トラクター、耕耘機等）の修理・維持管理補助</p> <p>プロジェクトにおけるインターン期間中における日常の基本的な活動は以下を予定①午前：プロジェクト圃場（研修実施場所）で原原種種子生産にかかる圃場管理補助および品種選定試験等補助など。②午後：これまでのモニタリング等調査結果のとりまとめ補助、その他モニタリング実施に合わせてモニタリングの補助やその他のプロジェクト活動の補助（農業機械の修理など）。</p>			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<p>1. 普及員、中核農家、農家組織代表を対象とした稲作研修への参加、2. プロジェクト対象4州（中央、東、南、北西部州）のプロジェクト試験圃場での品種維持管理および試験活動への参加、3. 対象州の一般農家へのモニタリング同行・参加、および4. 農業機械維持管理にかかる補助業務</p>			
■受入時期・期間			
2018年5月から2018年3月までの8ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可		農業分野専攻者のみ	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
英語の場合は英検準1以上、TOEIC740点、TOEFL (iBT80点、CBT213点)、IELTS5.5以上。フランス語は仏検2級以上、DELFB1以上が望ましい。			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	18中期02
■部署名/事務所名：	ボリビア事務所	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名：	ボランティア事業		
■テーマ			
ボランティア事業の実施効果分析、及び他機関との協働可能性に係る調査			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>1. ボリビアにおける持続的且つ戦略的な要請開拓を実施するための基礎データを収集するべく、以下の業務を行う。</p> <p>①これまでボランティアを派遣してきた配属機関に対し、事業実施効果についてのヒアリングを行うと共に、今後の派遣可能性について調査・分析する。</p> <p>②国際機関等の各ドナー及び国際・現地NGOが実施しているプロジェクトの中から、ボランティア事業との連携可能性があるプロジェクトを絞り込んで調査を行い、JICAボランティアの派遣職種の分析を行う。</p> <p>2. （ボリビアにおける）ボランティア事業40周年に係る各種行事等の支援業務を行う。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1.</p> <p>①ボランティア受け入れ実績のある機関を地域別や年度別毎に訪問し、実績や成果についてのヒアリングを実施する。また、JOCV派遣可能性及び妥当性について纏める。※ ※訪問時はヒアリングペーパーに基づいて調査を実施。また、要請書類やパンフレット等を配布し、ボランティア事業のプレゼンスを高める。</p> <p>②現在（2017年8月時点）定期会合を実施している教育系ドナーグループの各機関（UNICEF、WB、IDB、UNFPA、UNESCO、WFP、AECID（スペイン）、COSUDE（スイス）等）のネットワークを活用し、各機関のプロジェクトについて調査する※。その上で、ボランティア事業と連携可能性のあるプロジェクトを選定し、実際のプロジェクトサイトを訪問。ドナーやステークホルダーと意見交換を行い、連携妥当性について調査を行う。 ※現在同ドナーグループは、各機関が実施しているプロジェクトマトリックスを作成中。この情報を基に、まずはインターネットや資料を活用して連携可能性のあるプロジェクトについて調査・分析する。</p> <p>2. ボリビア事務所が主催する40周年関連行事や業務において、ロジ面等での支援を行う。</p>			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ドナーグループの定期会議/プロジェクトサイト視察 ・40周年記念事業 			
■受入時期・期間			
2018年5月 から9月 までの5ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由：			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
<ul style="list-style-type: none"> ・西語での業務経験：2年以上（語学力目安：DELE B2以上が必要） ・（JICAや国連など）国際協力に関連するボランティア事業を経験したことがある人材 			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し <input type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			
配属先や国際機関等、複数の外部機関との関係があるため、語学力等や国際人材としての資質等の条件に見合わないと判断される場合には、応募者が複数いても面接にて不採用となるケース有。			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	18中期03
■部署名/事務所名:	JICAザンビア事務所	■募集人数 (人)	3
■課名/プロジェクト名:	教員養成校と学校現場との連携による教育の質向上 (IPeCK) プロジェクト		
■テーマ			
教育プロジェクトにおける初中等学校・教員養成校での調査支援及びプロジェクト運営管理業務の補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p><教員養成校と学校現場との連携による教育の質改善 (IPeCK) プロジェクト> 教員養成校の理数科教官と近隣の初中等学校の教員が協働で実施する授業研究や教材研究等の活動を通じて、彼らの「教授学的内容知 (PCK)」の向上を図り、教員養成課程と現職教員研修の内容を改善をしていく事業です。すでにザンビア全土の初等・中等学校では、JICAの10年にわたる支援により、校内研修として日本の授業研究の手法が導入されています。プロジェクトでは、対象となる3つの教員養成校が現場の授業研究の質を継続的に支えていく体制の構築を目指しています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1. プロジェクトの対象となっている教員養成学校およびその周辺初等・中等学校での調査実施とデータ整理（現地教員や養成校講師による理数科授業の観察、教員・学生へのインタビュー、各学校に関わる基礎データ収集等）の実施または補佐 2. インターンの興味・関心に応じた、プロジェクトに関連したテーマについての調査業務（初中等学校における理数科教育開発、児童生徒の実態、学校運営、教員の研修や教員養成学校と初中等学校の連携等に関するもの） 3. プロジェクト運営管理業務（教育省や関係機関との業務の調整、レター・書類の作成、必要物品の調達、会計処理、プロジェクト活動の記録、ホームページ記事作成等の広報業務など）の補佐</p>			
■参考情報			
<p><IPeCKプロジェクトのWebサイト> https://www.jica.go.jp/project/zambia/009/index.html <JICAナリッジサイトのニュースレター> http://www.jica.go.jp/activities/issues/education/ku57pq00000r11m0-att/education_news_201603.pdf <JICA 見える化サイト> https://www.jica.go.jp/oda/project/1300290/index.html</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
初中等学校・教員養成校での調査（現地教員の理数科授業モニタリング等）やそれに関係した教育機関における活動・ワークショップ等の視察			
■受入時期・期間			
2018年5月から12月までの 8ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可		教育または国際協力（教育開発）	
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
<p>1) TOEIC 800点以上相当の英語語学レベル 2) 文書作成・表計算・プレゼン等のPC基本ソフト使用技能</p>			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input checked="" type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): インターネット、PC周辺機器、コピー機			
■備考・留意点			
応募者多数の場合は、大学院生、社会人の方を優先します。			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	18中期04
■部署名/事務所名:	ザンビア	■募集人数 (人)	2
■課名/プロジェクト名:	Rice Dissemination Project		
■テーマ			
ザンビア国における稲栽培技術			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>ザンビア国はアフリカ南部の内陸国であり、近年経済発展に伴いコメの需要が増加しています。しかし生産は消費に追い付かず、約半分を輸入に頼り、コメ価格は主食のメイズと比べると5倍と高価です。一方で6割を占める農村部では、インフラ、教育水準、農業生産性の低さにより貧困が改善せず、自給自足の経済状況が続き、発展に取り残されています。同国には水資源が豊富にあり、農業生産に適した土地が多く存在し、コメ生産の高いポテンシャルを持っています。そのためプロジェクトではコメを農民の生産体系の一部に組み込むことで、食用作物の多様化を促し、食糧安全保障を強化、農村の収入向上に役立てたいと考えています。プロジェクト活動は主にザンビア農業省のコメ普及体制を確立することに焦点を当て、2015年末から2019年9月までを活動期間として、農業普及員を主な対象として実施中です。現地では長期専門家4名が活動中です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>農村での稲作技術向上のため、試験場や周辺農家での稲栽培をカウンターパートとともにを行います。基礎的な試験を通じて、農村でも活用できる技術を開発し、現地に適した稲作技術の普及につなげていきたいと考えています。モニタリングを通じて農家の声を聞くなど、フィールドでの活動の機会も豊富にあり、参加者はアフリカの農村社会に直接触れる機会を持つことができます。上記の活動はプロジェクト日本人専門家の計画、実施のもと行われるので、参加者の当該業務経験は問いません。また進捗によっては、日本の大学と連携し育種している、新しい稲の栽培試験にも関わる事もできます。中央試験場もしくは地方試験場を拠点とし、業務環境が十分でない中で試行錯誤しながらの活動となるが、参加者はプロジェクト専門家の指導の下、アフリカでの農業開発課題を体感し、今後の自身の目標設定やキャリアへの布石とすることを期待しています。</p>			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
農民研修。農村での稲作栽培のモニタリング。			
■受入時期・期間			
2018年10月末から3月末までの 6ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
■提供可能な執務環境等（可能な項目にチェックを入れてください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	
<input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項):			
■備考・留意点			

2017年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

一般型/中期型

受入担当部署/受入事務所		登録番号	18中期05
■部署名/事務所名:	東北支部	■募集人数 (人)	1
■課名/プロジェクト名:			
■テーマ			
東北5県(青森、岩手、秋田、宮城、山形)における国際協力への理解促進に向けた広報マテリアルの作成			
■テーマ(プロジェクトなど)の概要			
<p>東北においては多くの自治体、大学、NGO、民間企業等に、研修員の受入や草の根技術協力等を通じて国際協力に参加いただいております。ボランティアに参加する個人も多いが、こうした事例が市民の間に十分知られておらず、東北地方における市民の国際協力に係る理解度やJICAの知名度は他地方に比べて低いと言わざるを得ない。市民の「身近なところ」で行われている国際協力をさらにPRする必要があり、インターンの新鮮な目で各種協力を取材し、より市民にアピールする広報マテリアルをとりまとめたホームページやフェイスブックにアップするとともに、各県での国際協力や開発教育に係るイベントにおいて、インターン自身から取材の成果を発表してもらう。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>JICA東北及び各県に配置されている国際協力推進員の調整の下、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各県で実施されている研修コースに部分的に参加し、地元のリソースがいかに有効に研修に活用されているか、参加した研修員の反応、受け入れた地元の人たちの反応、研修員と地元の人たちの交流の様子等を取材し、広報マテリアルとしてとりまとめる。 2. 各県における草の根技術協力や中小企業海外展開支援等の実施団体・企業を訪問し、活動内容を取材して広報マテリアルとしてとりまとめる。 3. 各県における国際協力イベントや開発教育イベントに参加して、その内容や参加者の反応等を取材して、広報マテリアルとしてとりまとめる。 4. 以上の取材経験をもとに、インターン自身が各県における国際協力や開発協力イベントにおいて、自身の体験を発表する。 			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2018年6月 から10月 までの 5ヶ月間程度			
<input checked="" type="radio"/> 調整可 <input type="radio"/> 調整不可 理由:			
■希望する人材		■希望する分野	
大学生・大学院生・社会人可			
■応募資格以外に受入れに必要な要件			
研修員に取材可能なレベルの英語力			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース <input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用 <input type="checkbox"/> PC貸出し <input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 <input type="checkbox"/> 携帯電話貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担 <input type="checkbox"/> その他(提供可能な事項): _____			
■備考・留意点			